SHUNPUUKAI LIBRARY INFORMATION

NO.68号

令和３年12月１日
社会福祉法人 春風会 広報誌

# はるかぜ

発行 社会福祉法人 春風会 理事長 石川三義 〒410-0302 静岡県沼津市東椎路1742-1 TEL 055(967)1166代 FAX 055(967)3566 春風会HPアドレス http://www.shunpuukai.com/

敬老会行事（みはるの丘浮島）

## 山葵田の清流

なかいず認定こども園　園長　飯田　重信

伊豆市で生産される山葵は全国的にも最高級品として扱われる。その品質が高い理由の一つに伊豆の清らかな湧水があげられる。実は、山葵は根から毒を分泌して他の植物の種子が発芽するのを抑えたり、根の成長を妨げたりするのだ。そして、その毒はやがて自らの成長をも阻害し株全体が滅んでいくこともあるそうだ。伊豆銘産の山葵と呼ばれる立派な山葵へと育てるためには山葵田の清流で毒を洗い流しながら育てなくてはならない。

このような植物は多いそうで、それらの植物は「種の繁栄」をめざして根から毒を出すように進化してきたのだろう。その結果として他の植物の浸食を押さえ自己の繁栄という目的を一時的には達成する。しかし、毒をまき散らかして他を排除して得た繁栄は長く続かず、同じ毒によって自らも滅びてしまうこととなるのだ。

残念ながら人の歴史もそれに近いものがある。人権意識が高まりつつある現代に於いても、視聴率を稼ぐために、一部の評論家は事件が起きるたびに解決策をさぐるというより「○○が悪かった」などと、ただ毒をまき散らしている。「毒も使いようで薬」などという喩えもあり、TVの中の毒が全面的に悪いとは思わないが、成長盛りの子どもたちがその全てを是として心の中に溜め込んだなら、決して豊かな心は育まれないのに。

インターネットやスマホも便利な道具であるが、TVと同様にたくさんの毒を分泌している。毒と薬の判別が十分にできない子どもたちや、判断力が落ちてきている高齢者など弱者をターゲットとした毒もあり、やがて我が身を滅ぼす毒とは分からず自分の中に取り入れている場合も多い。だからこそ毒を洗い流す山葵田の清流のような役割が、特に社会的弱者の周りには必要ではないか。

小学生は、福祉とは「みんなが幸せに暮らせるように、助け合っていくこと」と学ぶ。まさに「社会福祉」こそ、山葵田の清流と同じ役割であるといえる。伊豆の清流が最高級の山葵を育むように、私たちは崇高な志で、人々の幸せを育んでいきたい。

# 第24回 社会福祉法人 春風会 合同職員研究発表会

令和三年十月十四日（木）沼津プラサヴェルデにおいて第二十四回法人合同職員研究発表会が開催されました。例年は四月下旬に開催しておりましたが、コロナウイルス感染拡大防止のため十月まで延期し、参加人数を百人程度に制限して、十分なソーシャルディスタンスを取って開催しました。

研究発表は全施設で研究成果を共有し、サービス向上に役立てることを目的に毎年開催しており、今年で二十四回を迎えました。はじめに石川理事長より「コロナ禍において、当法人はクラスターの発生を予防できているため、今後も感染予防の徹底をお願いします。研究発表においては、各取り組みを活かし、介護技術向上と、科学的介護の実践やＩＣＴ技術を活用して介護現場の生産性を向上し、魅力ある法人となるように取り組んでほしい。」と挨拶されました。特別表彰では他の模範となる職員として、伊豆中央ケアセンター堀内和憲施設長、ぬくもりの里川口和義施設課長、天城デイセンター田内健太郎通所統括主任、みはるの丘浮島杉山陽亮施設主任相談員が表彰され、永年勤続表彰では七十五名の方が表彰されました。続いて各施設職員による合計九題の研究成果が発表されました。今回、優秀賞に選ばれた三題を紹介させていただきます。

## 「スタッフの個性を活かしたデイサービスプログラムを考える ～コロナに負けない事業所運営を目指して～」
### はらデイサービスセンター

新型コロナ禍において、外部講師を迎えての教室、課外訓練等の利用者から人気のある活動の殆どが中止を余儀なくされてしまいました。そこではらデイサービスでは、スタッフの資格や特技、趣味に着目しました。スタッフが講師になり、それぞれの個性ある教室を開催し、コロナに負けない事業所運営を目指し、取り組みました。取り組み当初は、既存のサービスとの差別化に課題がありましたが、看板を掲げ、講師の衣装を変えることで教室の雰囲気作りを行いました。また、敢えて開催曜日を限定しないことで、より多くの方が様々な教室に参加できるよう工夫し、現在日替わりで教室が開催できています。

今後はこの活動を継続し、教室の質を低下させることなく、より魅力のある教室を展開することで、満足度向上のみならず、実績の向上にも繋げていきたいと思います。

はらデイサービス　チェアヨガの実践

## 「地域で暮らすあなたへ ～私達のできること～」
### 天城デイサービスセンター

天城デイサービス利用者の多くは日中独居や老々世帯・独居の方が多く、夕食弁当のニーズが高いです。天城地区は商店のない地域であり高齢者にとっては生活のしにくさを感じます。デイサービスに来ながら買い物が出来る、用が足せることができないかと考え、実践しました。買い物代行サービスを地域の商店と、リモートを使用した買い物代行などを行いました。「たすかるよ」「ありがとう」と利用者に好評を得ることができましたが実施方法等課題は残ります。定期的に実施できる方法を考えサービスに繋げて行きたいです。また、デイサービスで行えることには限界が有る事も現状の課題として感じる事ができました。今後も、高齢者が地域で暮らし続けて行く為に様々なアプローチをしながらサービスの向上に努めたいと思います。

## 「交通事故の削減を目指して」
### ぬくもりの里事務

社会福祉事業では、多くの公用車を保有し自動車は欠かせない存在となっています。送迎では利用者の大切な命を預かり運転しております。その一方で接触や衝突による交通事故や、通勤時における交通事故が多かったため、事故原因や件数の統計調査を実施しました。またアンケート調査、警察署や保険会社による交通安全講習、事故を教訓に事故時の対応マニュアルの作成、新規職員への交通安全指導等を行い、事故削減と再発防止に重点を置き活動しました。４年間継続したことで交通事故の原因と傾向が見えてきました。事故の約8割は動かない物への衝突（運転操作ミス）であり、また事故の場所は駐車場と構内を合わせると道路上よりも多く、さらに事故全体の約5割がバックでの事故でした。４年間の結果としてはバックでの事故の割合は減らないものの、事故件数と通勤時の事故は減少しました。なぜ事故を起こすのかを追求し、防げる事故を減らすために今後も取り組みを継続し、更なる安全運転の向上に繋げていきたいです。

優秀賞３題発表者

優秀賞６題発表者

# 特別表彰・永年勤続表彰

## 特別表彰者

春風会では多年に亘り法人の経営施設・事業所等の発展に貢献した職員に対し特別表彰を行っています。

堀内和憲（伊豆中央ケアセンター施設長）
川口和義（ぬくもりの里　施設課長）
田内健太郎（天城デイセンター通所統括主任）
杉山陽亮（みはるの丘浮島施設主任相談員）

特別表彰者

## 永年勤続表彰者

### 四十年勤続表彰者

山下勇（みはるの丘浮島）
鈴木直美（あしたかホーム）

### 三十五年勤続表彰者

宮代夏代（プレーゲあしたか）
大久保喜子（あしたか通所）

### 二十五年勤続表彰者

関野勝弘（あしたか通所）
川口和義（ぬくもりの里）
三田かづ子（修善寺通所）
石井佳子（プレーゲおおひと短期）
大森未来（あおばの家）

### 二十年勤続表彰者

杉山誠（プレーゲあしたか多機能）
松下素子（伊豆中央ケア訪問）
加藤洋子（伊豆中央ケア訪問）
塩谷百恵（伊豆中央ケア短期）

永年勤続表彰（40.35.25.20.15.10）代表者

### 十五年勤続表彰者

梅原浩美（天城放課後児童C）
渡邉壽子（プレーゲおおひと訪問）
若林絵美（プレーゲおおひと）
内田由花（みはるの丘浮島）
尾身崇（みはるの丘通所）
向坂美津子（高尾園）
山田美佳（高尾園）
木内和実（法人本部）
渡邉恵（あしたか短期）
小林誉教（プレーゲあしたか）
藤井剛司（プレーゲあしたか多機能）
中司樹美（あしたか居宅）
寺西美穂（はら通所）
大橋美保（あしたか通所）
羽切明美（あしたか通所）
上岡徳子（あしたか通所）
丸山沙耶香（あしたかホーム）
松井清美（あしたか訪問）
山本久恵（伊豆中央ケアC）
伊藤礼（伊豆中央ケアC）
今井和美（伊豆中央ケア訪問）
牧野万起子（伊豆中央ケア居宅）
藤枝直美（伊豆中央ケア短期）
安田秀（天城通所）
土屋珠美（天城通所）
土屋淳子（プラム）
大川尚美（北狩野ケア）
原佳孝（プレーゲおおひと通所）
矢田茂美（プレーゲおおひと）
山本香（プレーゲおおひと通所）
伊賀美恵（もくせい苑）

### 十年勤続表彰者

菊池英明（ぬくもり通所）
鈴木高士（ぬくもりの里）
岡田純一（みはるの丘浮島）
林博美（みはるの丘訪問）
鈴木史哉（高尾園）
森田めぐみ（あしたかホーム）
福山奈津子（あしたかホーム）
佐藤慈晃（あしたかホーム）
赤松智美（あしたかホーム）
成澤節子（あしたかホーム）
牧野綾子（あしたかホーム）
岡田麻夕（はら通所）
斉藤雅子（はら通所）
竹口けい子（はら通所）
古屋実佳（プレーゲあしたか）
岩崎知里（沼津虹の家）
勝呂啓子（沼津虹の家）
柴田尚子（沼津虹の家）
杉本龍一（伊豆中央ケアC）
原瞳（伊豆中央ケア通所）
海老名秀子（伊豆中央ケア短期）
山田友美（伊豆中央ケア居宅）
片山由理（伊豆中央ケア短期）
高田友美（ぬくもりの里）
加藤富士子（ぬくもり短期）
鈴木恵子（プレーゲおおひと通所）
三浦明子（プレーゲおおひと居宅）
岡本竜也（みはるの丘浮島）
富永夏紀（みはるの丘浮島）
宮代祐美代（高尾園）

# 第１回 広報誌コンテスト 入賞作品紹介

法人総務部会では、法人内の各事業所で発刊されている広報誌についてコンテストを行い、施設入所・在宅サービス・障害サービスの３部門に分けて表彰を行いました！

## 広報誌コンテスト入賞事業所

| | |
|---|---|
| 【施設入所部門】 | 北狩野ケアセンター |
| | 伊豆中央ケアセンターひだまりユニット |
| 【在宅サービス部門】 | あしたかデイサービスセンター |
| | はらデイサービスセンター |
| 【障害サービス部門】 | もくせい苑 |
| | 沼津虹の家 |

沼津虹の家

あしたかデイサービスセンター

北狩野ケアセンター

はらデイサービスセンター

伊豆中央ケアセンターひだまりユニット

もくせい苑

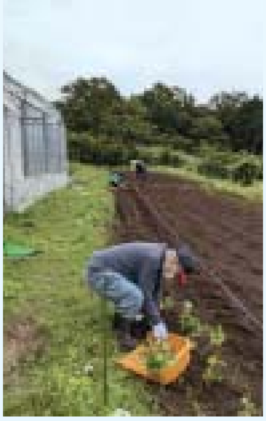
## 伊豆中央ケアセンター

# リモート施設見学

例年、春風会では小学生から大学生まで施設を訪問して福祉の現場を肌で感じるために、施設見学や現場実習が行われていましたが、新型コロナウイルスが蔓延するにつれて感染防止の観点から現場での体験が失われていました。伊豆総合高校も同様で福祉の事を少しでも理解出来て、現場の空気を感じて頂けるように今回は、『ZOOM』で授業を実施しました。今回の講師は植松主任でした。笑いを取りながら、学生を楽しませて授業を行いました。生活支援に必要な、『こころとからだのしくみ』の中から、睡眠、排泄、入浴というテーマでしたので、一般浴、特浴、個浴、ベッド周りやトイレ等を画面で見ました。利用者の様子や、レクなどの様子も画面に映ると、楽しそうにやっているレクを見て、『楽しそうだよね。』とか『レクは難しそうだね。』という声も聞こえました。学生の感想文からは、「利用者の様子が分かり実際行ったような感じがして良かったです。」「職員の仲の良さが伝わりました。」「職員さんや利用者と直接お話が出来て福祉の現場を体験できました。」などの感想が聞かれ、施設見学が制限される中、少なからず福祉の現場を体験できたのではないかと感じました。高校の授業でリモートの授業は初めてだったので副校長や、家庭科の先生たちも見学して下さり、楽しみながらの実施が出来ました。今後も感染症が続くようであれば、現場の様子を実際に見て頂き感じていただくように、実施して行けたらと思います。

## 沼津市立高尾園

# EPOから学ぶ農福連携



令和三年八月、高尾園にてNPO法人EPO高橋理事長をZOOM講師に招き、『農福連携～障がい者の就労の場・居場所つくり～』について職員研修が行われました。EPOは、「E＝エコ、P＝ポニー、O＝オーガニック」通称エポと呼ばれ、今から二十年前、富士宮市で子供たちの遊び場を必要とした保護者が中心となり、放課後児童クラブを開設したのをきっかけに、児童館として地域へ開放した事に始まります。その後、少年団の牧場、幼稚園、就労継続支援B型、児童発達支援に取り組み、特に乗馬やアート工芸品の制作、手作りの菓子やパンを提供するカフェ、高齢で畑の管理が難しい近隣住民の農業のお手伝い等、地域と相互扶助が生まれる活動に発展しました。今では地域に開かれた農場として、大学の演習や合宿の場として、またイベント会場としても広く活用され、年齢や性別、障がいの有無に関係なく、誰もが活躍できる「居場所」となっています。

現在、高尾園では既存の畑を活用して、入居者や地域の引きこもり、生活困窮者対策として、農作業を通した社会参画支援を展開しています。農福連携によるこの取り組みが、各々の特性を活かす活動となり、利用者の達成感や満足感、他者との連帯感を生んで、地域の課題解決に繋がるよう試行錯誤をしています。今回の研修を参考にして、高尾園の農福連携の取り組みが、人が人を呼ぶ、活動の輪が広がる、多くの人の「居場所」となり、地域との共生社会の一歩に繋がる事を願いたいと思います。

今年八月、春風会は法人創設四十五周年を迎えました。昭和五十年代初め、老人介護がまだ家庭を中心に行われていた時代、法人創立者の故石川春男初代理事長により『社会の老人を看取る』という理念のもと、あしたかホームの歩みは始まりました。それは、人生の終末期におけるお年寄りが希望通りの人生が送れるよう、また、家族の過度な負担が減らせるようにとの想いによるものです。その想いは四十五年経った今も変わらず、法人の施設では、終末期の看取りケアに取り組んでいます。各施設の看取りケアの取り組み状況や看取りケアに対するご家族の声は、既刊の本紙でもたびたびご紹介をさせていただきました。

　今回は、各施設の主任者にお集まりいただき、施設における看取りケアの現状とこれからの看取りケアの在り方、取り組み課題等について話し合っていただきました。

※座談会は、令和三年十月五日に感染症対策を取り開催しました。座談会の内容は、本号と69号の二回に分けて掲載します。

# はるかぜ座談会

## ～施設における看取りケアの現状と今後の課題～

**Vol.1**（全２回）

座　　長：石川三義理事長
メンバー：渡邉富美子（あしたかホーム介護課長）
高橋勇次（あしたかホーム介護主任）
山本久恵（伊豆中央ケアセンター課長）
濱野絵里子（伊豆中央ケアセンター介護副主任）
海老名貴子（みはるの丘浮島介護主任）

**石川**　法人が取り組んでいる看取りケアについて、分かりやすく見える化することにより社会全体に正しく理解して頂くことが大切です。我々の看取りケアに対する取り組みは、医療サイドや一般のジャーナリズムにまだまだ十分に理解されておりません。私たち介護現場からしっかりと看取りケアに対する情報発信をすることは、これからの人生百年時代に必要なものであると思います。

石川三義 理事長

## 各施設の看取りケアに対する現状の取り組み

**渡邉**　私は介護課長という立場になって施設全体の看取りケアに対する取り組みが客観的に見える様になりました。その中で、家族に対しての支援について感じたことは、一番近くでお世話をするのは介護士だけではなく、そこに看護師や栄養士、理学療法士、相談員、事務員に至るまで、どの職種が欠けても施設での看取りケアは出来ないということです。終末期だからではなく、常日頃から多職種と連携を図りながら、あしたかホームでは入居者の支援をしていますが、お亡くなりになった入居者の表情を見た時に、私たちは本当に満足のいく支援ができたのかを自問しています。

渡邉富美子 介護課長

**山本**　施設で入居者の最期を看取る事に、介護士も看護師も不安を抱えていると思います。私は看護師として病院に勤務していましたが、特養ホームで看取りをしているとは知りませんでした。入職後に、最初の看取りに

出会った時には、テレビのドラマ等ではモニターを良く見かけると思いますが、そのモニターすらない状況下で、人の死を看取るとは何事かとカルチャーショックを受けたことを、鮮明に覚えています。しかし、人間は食事も水分摂取も出来ない中で、徐々に自分の体の中のものを使いながら、苦しむこともなく、浮腫みもなく、弱りながらもきれいな身体で死を迎えていくことの人間の強さ、素晴らしさを学びました。この自然死に対して、介護士に恐れることなく、人が生まれて死んでいくことに立ち会えることの凄さを分かり、そこに向けて自分たちが出来ることをやっていける施設にしたいと思っています。

山本久恵 施設課長

**石川**　施設で看取られながらお亡くなりになったっ方は、「生きているように死んでいく」と表現される様に、苦しみもなく、自然な表情で旅立たれています。素晴らしい事であると思います。

## 終末期の方の願いをかなえる
### 悔いのない最期を迎えるために

**濱野**　現場職員の立場から副主任という立場に変わり、介護力や職員の人間力というものが、看取りケアには必要であるという事が分かって来ました。この人にとって何が大事なんだろう、何をしてあげたら一番喜んでもらえるのか、という目線で介護を考えられるようになりました。

　多職種で連携した一番例は、百七歳の女性の入居者が「反射炉に行きたい」という想いがあり、お亡くなりになる前の二月という厳寒期に外出をしました。医療的には酸素吸入をしている良くない状況下でしたが、本人には行きたいという意思があり、「この人の想いを叶え悔いのない人生にしてあげたい」と思い、家族や色々な職種の職員にも協力を得て外出をしました。職員にはそれに対する様々な反対意見もありましたが、本人は、「反射炉を見れて良かった」と喜ばれ、その二ヶ月後にお亡くなりになりました。

**石川**　医療的な面からみると、その行為はしてはいけない事であると思います。人を一人の人間と見た場合、医療的なリスクではなく、その人の想いを実現すること、その想いを大事にすることの方が、私は大切であると思います。それが例え小さな願いであっても、「叶えてあげたい」という思いが、良い介護に繋がると思います。

濱野絵理子 介護副主任

**濱野**　医療的にはいけない行為であっても、本人は行きたいという想いがあり、職員には「風邪を引かせてはいけない」「もっと長生きをして欲しい」という想いもあり、心の葛藤がありました。ですが、「その人の想いを遂げさせてあげたい」「本人の意向を一番に尊重したい」という強い想いが、職員全員を動かしたと思います。

**石川**　あしたかホームでもお亡くなりになる一～二週間前位の入居者を、ファミリーレストランに外食に出掛けたことがありました。その時は、「ガストのオムライスが食べたい」というお亡くなりになった方の願いでした。ほんの些細な願いかもしれませんが、その想いを現場でその方を支えてきた介護士だから汲み取ることができ、気付くことができたと思います。

**海老名**　入居者をケアする中で、「桜が見たい」と言って携帯酸素を付けてリクライニング車いすで外出したり、「たくあんが食べたい」という要望には、管理栄養士と検討を重ね提供したことがありました。現場の介護士がその人の想いを持って来て、それを多職種でどの様に実現させていくか、連携していくかが大事です。先ずはその人の想いを汲み取れる介護士を育てないと、そこには連携は成り立たないと思いました。

（続）

《次号は、令和四年三月頃発刊予定》

## 熱海市豪雨災害派遣について　（静岡DWAT）　ぬくもりの里

令和３年７月２５日（日）～２７日（火）の３日間、避難所になっている熱海市「熱海　金城館・ウオミサキホテル」にて支援を行いました。

私は第６クールメンバーとして参加しました。第３クールでは、同法人の天城デイサービスセンターの田内氏も参加しており、先陣のメンバーがDWAT（災害派遣福祉チーム）主催でフレイル等の予防、気分転換を目的に健康体操を立ち上げました。

支援の流れとしては、朝DWATミーティング、その後保健師・看護協会・JRAT・ケアマネ協会等全支援チームでの情報共有会議にて避難者の状況確認と情報交換、支援方法等の会議が行われます。その後は避難所の２か所に分かれ、保健師やJRAT等と同行し、要フォロー者の各部屋にラウンドしアセスメントや状態確認を行います。午後にも同様にラウンドします。DWATではラウンドとは別に、各避難所で健康体操を実施し、夕方には再度全支援チームでの会議にて情報共有します。

DWAT主催の健康体操では、DWAT独自のものやJRATのOT、PT、STなど専門職が考えたリハビリ体操も協力依頼し、ドクターによる講話も取り入れることができ、好評でしたが、参加人数が多くなると、限られたスペースでの実施の為、密になってしまう状況や声を出して行う体操もあり、新型コロナ感染症予防対策の面では課題があがり、スペースの配慮や声を出す体操の中止など工夫を加えていきました。

保健師等とのラウンドでは、避難者の中には、「話したくない、ほっといて欲しい」といった気持ちの方もいて、心理士の方もラウンドに同行してもらい、そのような方の関わりについても対応していきました。保健師とのラウンド以外にも、高齢者の方で認知面に心配が感じられる方や身体的に転倒リスクのある方等はDWAT単独での訪問も行い、ニーズを伺ったり、状態観察を行いました。落ち着かない方に関しては行動を共にし、気分の転換を図ることも行いました。

避難者からの相談等は日中・夜間通してあり、情報共有会議で情報を把握していき支援が必要な部分は各専門機関に繋ぐといった動きをしていきました。相談の内容によっては、全て支援すべきではない事柄も出てきていて、その選別に難しさを感じましたが、支援終了後にどれだけ避難者が自ら動くことができるかを考えると過剰な支援は控えなければならないと痛感しました。

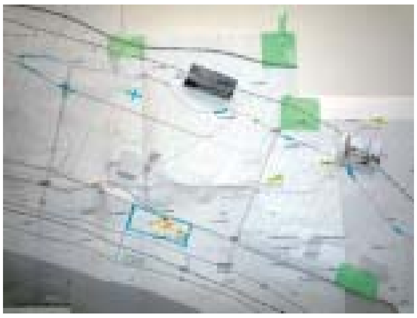
我々も災害等にてこのような事態になる可能性があることを考え、BCP（事業継続計画）をしっかりと作成・見直ししていくことが必要であり、大切さを痛感しました。この経験を活かし、避難者の先を考えた支援や自施設での災害時の対応等見直していきたいと感じました。

生活相談員　鈴木由祐

## ７月２日の豪雨時の被害状況と対策　みはるの丘浮島

７月１日から降り続いた降雨は、７月２日夜から３日の早朝にかけて、東海や関東の太平洋側で記録的な豪雨となりました。この豪雨により、熱海市伊豆山地区では土石流により２０人以上の犠牲者が出る大きな被害が発生しました。県東部においても、黄瀬川沿いの自宅崩落、清水町大橋の崩落、原浮島地区の河川氾濫による道路の寸断、西添町の床上浸水等の被害が報道されました。当施設みはるの丘浮島周辺においても、河川が氾濫し、道路が通行不能となり、３日朝は職員が出勤できなくなり、入所は前日に出勤した職員が残って業務にあたり、デイサービスは中止、ヘルパーも訪問中止としました。午後には道路の水が排水されたため、一時的な被害で済みました。幸いこの豪雨による人的被害はありませんでしたが、西添町在住の職員３名の自宅の床上浸水、修繕による一時的引越し、水没による５台の自家用車の廃車等、被害を受けた職員は大変苦労しました。また、警戒レベル４による避難指示が出たため、浮島小学校体育館に十数名の地域住民が避難し、地域住民からは四十年に一度の大雨だとの声が聞かれました。

このように短時間に集中的に降る豪雨により道路状況が急に変わるため、天気予報や施設近辺の状況を情報共有して、安全第一として職員の出勤やサービス提供について予防的な対策や指示ができるように、今回の道路の冠水箇所や浸水した区域がわかる独自の施設周辺のハザードマップを作成して、職員研修で共有しました。また豪雨予報発令時は、職員は自宅や家族の安全を確保し、施設事務所で施設周辺の道路や気象情報を把握して、職員が安全に出勤できるように情報を発信して、出来る限りサービスを継続できるようにしていきたいと思います。



# 社会福祉法人春風会　決算報告書

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

## 法人単位資金収支計算書

（自）令和2年4月1日　（至）令和3年3月31日

（単位：円）

| | | 勘定科目 | 予算（A） | 決算（B） | 差異（A）-（B） |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業活動による収支 | 収入 | 介護保険事業収入 | 3,455,508,000 | 3,472,608,731 | -17,100,731 |
| | | 老人福祉事業収入 | 25,829,000 | 25,820,999 | 8,001 |
| | | 保育事業収入 | 301,103,000 | 303,872,987 | -2,769,987 |
| | | 就労支援事業収入 | 15,584,000 | 14,263,389 | 1,320,611 |
| | | 障害福祉サービス等事業収入 | 330,827,000 | 330,177,775 | 649,225 |
| | | 生活保護事業収入 | 239,840,000 | 236,389,991 | 3,450,009 |
| | | その他の事業収入 | 30,107,000 | 29,461,382 | 645,618 |
| | | 借入金利息補助金収入 | 355,000 | 355,000 | 0 |
| | | 経常経費寄附金収入 | 6,580,000 | 6,900,453 | -320,453 |
| | | 受取利息配当金収入 | 4,029,000 | 4,299,404 | -270,404 |
| | | その他の収入 | 10,782,000 | 9,868,293 | 913,707 |
| | | 流動資産評価益等による資金増加額 | | 0 | 0 |
| | | 事業活動収入計（1） | 4,420,544,000 | 4,434,018,404 | -13,474,404 |
| | 支出 | 人件費支出 | 3,154,054,000 | 3,092,484,908 | 61,569,092 |
| | | 事業費支出 | 657,046,000 | 621,679,058 | 35,366,942 |
| | | 事務費支出 | 284,629,000 | 248,018,261 | 36,610,739 |
| | | 就労支援事業支出 | 15,734,000 | 15,481,469 | 252,531 |
| | | 利用者負担軽減額 | 2,046,000 | 1,421,290 | 624,710 |
| | | 支払利息支出 | 896,000 | 895,000 | 1,000 |
| | | その他の支出 | 4,239,000 | 3,979,440 | 259,560 |
| | | 流動資産評価損等による資金減少額 | 76,000 | 75,040 | 960 |
| | | 事業活動支出計（2） | 4,118,720,000 | 3,984,034,466 | 134,685,534 |
| | 事業活動資金収支差額（3）=（1）-（2） | | 301,824,000 | 449,983,938 | -148,159,938 |
| 施設整備等による収支 | 収入 | 施設整備等補助金収入 | 54,305,000 | 54,052,906 | 252,094 |
| | | 施設整備等寄附金収入 | 643,000 | 642,400 | 600 |
| | | 設備資金借入金収入 | | 0 | 0 |
| | | 固定資産売却収入 | 40,000 | 39,340 | 660 |
| | | その他の施設整備等による収入 | | 0 | 0 |
| | | 施設整備等収入計（4） | 54,988,000 | 54,734,646 | 253,354 |
| | 支出 | 設備資金借入金元金償還支出 | 16,001,000 | 16,000,000 | 1,000 |
| | | 固定資産取得支出 | 119,166,000 | 118,744,898 | 421,102 |
| | | 固定資産除却・廃棄支出 | 184,000 | 123,200 | 60,800 |
| | | ファイナンス・リース債務の返済支出 | 6,871,000 | 6,780,596 | 90,404 |
| | | その他の施設整備等による支出 | | 0 | 0 |
| | | 施設整備等支出計（5） | 142,222,000 | 141,648,694 | 573,306 |
| | 施設整備等資金収支差額（6）=（4）-（5） | | -87,234,000 | -86,914,048 | -319,952 |
| その他の活動による収支 | 収入 | 積立資産取崩収入 | 4,591,000 | 121,937,892 | -117,346,892 |
| | | その他の活動による収入 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| | | その他の活動収入計（7） | 5,091,000 | 122,437,892 | -117,346,892 |
| | 支出 | 積立資産支出 | 354,958,000 | 470,511,200 | -115,553,200 |
| | | その他の活動による支出 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| | | その他の活動支出計（8） | 355,458,000 | 471,011,200 | -115,553,200 |
| | その他の活動資金収支差額（9）=（7）-（8） | | -350,367,000 | -348,573,308 | -1,793,692 |
| 予備費支出（10） | | | 17,956,000 | | 16,805,000 |
| | | | -1,151,000 | | |
| 当期資金収支差額合計（11）=（3）+（6）+（9）-（10） | | | -152,582,000 | 14,496,582 | -167,078,582 |
| 前期末支払資金残高（12） | | | 1,535,926,333 | 1,535,926,333 | 0 |
| 当期末支払資金残高（11）+（12） | | | 1,383,344,333 | 1,550,422,915 | -167,078,582 |

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）

## 法人単位事業活動計算書

（自）令和2年4月1日　（至）令和3年3月31日

（単位：円）

| | | 勘定科目 | 当年度決算（A） | 前年度決算（B） | 増減（A）-（B） |
|---|---|---|---|---|---|
| サービス活動増減の部 | 収益 | 介護保険事業収益 | 3,472,608,731 | 3,416,082,121 | 56,526,610 |
| | | 老人福祉事業収益 | 25,820,999 | 25,210,464 | 610,535 |
| | | 保育事業収益 | 303,872,987 | 308,418,758 | -4,545,771 |
| | | 就労支援事業収益 | 14,263,389 | 16,003,461 | -1,740,072 |
| | | 障害福祉サービス等事業収益 | 330,177,775 | 309,706,051 | 20,471,724 |
| | | 生活保護事業収益 | 236,389,991 | 231,908,361 | 4,481,630 |
| | | その他の事業収益 | 29,461,382 | 31,879,600 | -2,418,218 |
| | | 経常経費寄附金収益 | 6,900,453 | 522,386 | 6,378,067 |
| | | その他の収益 | 0 | 0 | 0 |
| | | サービス活動収益計（1） | 4,419,495,707 | 4,339,731,202 | 79,764,505 |
| | 費用 | 人件費 | 3,098,693,543 | 3,053,363,386 | 45,330,157 |
| | | 事業費 | 621,514,810 | 611,851,695 | 9,663,115 |
| | | 事務費 | 249,016,525 | 344,120,902 | -95,104,377 |
| | | 就労支援事業費用 | 16,443,970 | 17,726,101 | -1,282,131 |
| | | 利用者負担軽減額 | 1,421,290 | 1,602,438 | -181,148 |
| | | 減価償却費 | 318,839,038 | 320,403,049 | -1,564,011 |
| | | 国庫補助金等特別積立金取崩額 | -159,893,940 | -161,656,797 | 1,762,857 |
| | | 徴収不能額 | 0 | 0 | 0 |
| | | 徴収不能引当金繰入 | 15,201 | 75,040 | -59,839 |
| | | その他の費用 | 0 | 0 | 0 |
| | | サービス活動費用計（2） | 4,146,050,437 | 4,187,485,814 | -41,435,377 |
| | サービス活動増減差額（3）=（1）-（2） | | 273,445,270 | 152,245,388 | 121,199,882 |
| サービス活動外増減の部 | 収益 | 借入金利息補助金収益 | 355,000 | 502,810 | -147,810 |
| | | 受取利息配当金収益 | 4,383,457 | 3,920,901 | 462,556 |
| | | 基本財産評価益 | 0 | 0 | 0 |
| | | 積立資産評価益 | 0 | 0 | 0 |
| | | その他のサービス活動外収益 | 9,868,293 | 16,659,273 | -6,790,980 |
| | | サービス活動外収益計（4） | 14,606,750 | 21,082,984 | -6,476,234 |
| | 費用 | 支払利息 | 895,000 | 1,177,810 | -282,810 |
| | | 基本財産評価損 | 0 | 0 | 0 |
| | | 積立資産評価損 | 0 | 0 | 0 |
| | | その他のサービス活動外費用 | 4,513,764 | 4,758,431 | -244,667 |
| | | サービス活動外費用計（5） | 5,408,764 | 5,936,241 | -527,477 |
| | サービス活動外増減差額（6）=（4）-（5） | | 9,197,986 | 15,146,743 | -5,948,757 |
| 経常増減差額（7）=（3）+（6） | | | 282,643,256 | 167,392,131 | 115,251,125 |
| 特別増減の部 | 収益 | 施設整備等補助金収益 | 54,052,906 | 13,658,400 | 40,394,506 |
| | | 施設整備等寄附金収益 | 642,400 | 0 | 642,400 |
| | | 固定資産受贈額 | 0 | 1 | -1 |
| | | 固定資産売却益 | 39,339 | 21,678 | 17,661 |
| | | その他の特別収益 | 571,608 | 685,200 | -113,592 |
| | | 特別収益計（8） | 55,306,253 | 14,365,279 | 40,940,974 |
| | 費用 | 基本金組入額 | 0 | 0 | 0 |
| | | 資産評価損 | 0 | 0 | 0 |
| | | 固定資産売却損・処分損 | 307,902 | 169,589 | 138,313 |
| | | 国庫補助金等特別積立金取崩額（除却等） | -70,860 | 0 | -70,860 |
| | | 国庫補助金等特別積立金積立額 | 54,052,906 | 13,658,400 | 40,394,506 |
| | | 災害損失 | 0 | 0 | 0 |
| | | その他の特別損失 | 0 | 0 | 0 |
| | | 特別費用計（9） | 54,289,948 | 13,827,989 | 40,461,959 |
| | 特別増減差額（10）=（8）-（9） | | 1,016,305 | 537,290 | 479,015 |
| 当期活動増減差額（11）=（7）+（10） | | | 283,659,561 | 167,929,421 | 115,730,140 |
| 繰越活動増減差額の部 | 前期繰越活動増減差額（12） | | 3,868,818,473 | 4,021,241,702 | -152,423,229 |
| | 当期末繰越活動増減差額（13）=（11）+（12） | | 4,152,478,034 | 4,189,171,123 | -36,693,089 |
| | 基本金取崩額（14） | | 0 | 0 | 0 |
| | その他の積立金取崩額（15） | | 117,000,000 | 0 | 117,000,000 |
| | その他の積立金積立額（16） | | 461,484,053 | 320,352,650 | 141,131,403 |
| | 次期繰越活動増減差額（17）=（13）+（14）+（15）-（16） | | 3,807,993,981 | 3,868,818,473 | -60,824,492 |

## 法人単位貸借対照表

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

（自）令和2年4月1日　（至）令和3年3月31日

（単位：円）

| 資産の部 | | | | 負債の部 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当年度末 | 前年度末 | 増減 | | 当年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 流動資産 | 1,714,231,760 | 1,693,217,787 | 21,013,973 | 流動負債 | 368,167,388 | 358,548,993 | 9,618,395 |
| 現金預金 | 1,020,859,311 | 998,456,283 | 22,403,028 | 短期運営資金借入金 | | | 0 |
| 事業未収金 | 617,791,528 | 650,225,397 | -32,433,869 | 事業未払金 | 63,351,072 | 63,212,137 | 138,935 |
| 未収金 | 1,760,646 | 2,098,804 | -338,158 | その他の未払金 | 8,534,075 | 1,398,056 | 7,136,019 |
| 未収補助金 | 69,637,950 | 37,880,960 | 31,756,990 | １年以内返済予定設備資金借入金 | 16,000,000 | 16,000,000 | 0 |
| 未収収益 | | | 0 | １年以内返済予定リース債務 | 6,963,992 | 6,423,596 | 540,396 |
| 受取手形 | | | 0 | １年以内支払予定長期未払金 | | | 0 |
| 給食用材料 | | | 0 | 未払費用 | 55,353,190 | 55,022,870 | 330,320 |
| 商品・製品 | 312,230 | 917,164 | -604,934 | 預り金 | 85,635 | 98,128 | -12,493 |
| 仕掛品 | | | 0 | 職員預り金 | 35,852,147 | 36,364,972 | -512,825 |
| 原材料 | 224,161 | 241,631 | -17,470 | 前受金 | 111,536 | 111,536 | 0 |
| 立替金 | | | 0 | 前受収益 | | | 0 |
| 前払金 | 22,000 | | 22,000 | 仮受金 | | | 0 |
| 前払費用 | 3,639,135 | 3,472,588 | 166,547 | 賞与引当金 | 181,915,741 | 179,917,698 | 1,998,043 |
| 短期貸付金 | | | 0 | その他の流動負債 | | | 0 |
| 仮払金 | | | 0 | | | | |
| その他の流動資産 | | | 0 | | | | |
| 徴収不能引当金 | -15,201 | -75,040 | 59,839 | | | | |
| 固定資産 | 8,347,779,845 | 8,194,225,130 | 153,554,715 | 固定負債 | 122,383,794 | 134,790,682 | -12,406,888 |
| 基本財産 | 4,989,041,796 | 5,199,998,018 | -210,956,222 | 設備資金借入金 | 27,000,000 | 43,000,000 | -16,000,000 |
| 土地 | 723,678,768 | 719,678,768 | 4,000,000 | リース債務 | 16,192,150 | 16,265,622 | -73,472 |
| 建物 | 4,265,363,028 | 4,480,319,250 | -214,956,222 | 退職給付引当金 | 76,691,644 | 73,025,060 | 3,666,584 |
| その他の固定資産 | 3,358,738,049 | 2,994,227,112 | 364,510,937 | 長期未払金 | | | 0 |
| 土地 | 16,900,000 | 12,400,000 | 4,500,000 | 長期預り金 | 2,500,000 | 2,500,000 | 0 |
| 建物 | 2,552,168 | 7,461,034 | -4,908,866 | その他の固定負債 | | | 0 |
| 構築物 | 168,695,931 | 179,783,201 | -11,087,270 | 負債の部合計 | 490,551,182 | 493,339,675 | -2,788,493 |
| 機械及び装置 | | | 0 | 純資産の部 | | | |
| 車輌運搬具 | 8,616,681 | 2,892,278 | 5,724,403 | 基本金 | 194,131,464 | 194,131,464 | 0 |
| 器具及び備品 | 128,222,746 | 99,703,822 | 28,518,924 | 国庫補助金等特別積立金 | 2,671,525,855 | 2,777,828,235 | -106,302,380 |
| 建設仮勘定 | | | 0 | その他の積立金 | 2,897,809,123 | 2,553,325,070 | 344,484,053 |
| 有形リース資産 | 19,891,804 | 18,591,432 | 1,300,372 | 施設設備整備積立金 | 2,327,829,123 | 2,015,845,070 | 311,984,053 |
| 権利 | 3,757,168 | 4,158,967 | -401,799 | 施設整備等積立金 | 42,500,000 | 35,250,000 | 7,250,000 |
| ソフトウェア | 14,016,273 | 19,634,273 | -5,618,000 | 人件費積立金 | 527,480,000 | 502,230,000 | 25,250,000 |
| 無形リース資産 | 3,264,338 | 4,097,786 | -833,448 | 次期繰越活動増減差額 | 3,807,993,981 | 3,868,818,473 | -60,824,492 |
| 退職給付引当資産 | 76,691,644 | 73,025,060 | 3,666,584 | （うち当期活動増減差額） | 283,659,561 | 167,929,421 | 115,730,140 |
| 長期預り金積立資産 | 2,500,000 | 2,500,000 | 0 | | | | |
| 施設設備整備積立資産 | 2,327,829,123 | 2,015,845,070 | 311,984,053 | | | | |
| 人件費積立資産 | 527,480,000 | 502,230,000 | 25,250,000 | | | | |
| 施設整備等積立資産 | 42,500,000 | 35,250,000 | 7,250,000 | | | | |
| 差入保証金 | 1,385,000 | 1,385,000 | 0 | | | | |
| 長期前払費用 | 14,435,173 | 15,269,189 | -834,016 | | | | |
| その他の固定資産 | | | 0 | | | | |
| 徴収不能引当金 | | | 0 | 純資産の部合計 | 9,571,460,423 | 9,394,103,242 | 177,357,181 |
| 資産の部合計 | 10,062,011,605 | 9,887,442,917 | 174,568,688 | 負債及び純資産の部合計 | 10,062,011,605 | 9,887,442,917 | 174,568,688 |

社会福祉法人春風会の現況報告書・計算書類等は、春風会ホームページからもダウンロード出来ます。

## もくせい苑　授産品のオンライン販売

令和２年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響によりもくせい苑の活動やイベント等が中止となり、販売の機会が減少をしました。また、人の流れも少なくなり、市内の各販売所での売上にも大きな影響を及ぼしています。

この状況が約２年も続いており、もくせい苑の利用者さんが丹精込めて製作した商品をどの様にＰＲしていくか？新たな販売戦略が求められていました。

同時期に、静岡県が各障害者施設の授産品販売に非対面型のシステムを導入し、施設の授産品のインターネット通販「ふじのくに福さん品」が開設され、もくせい苑でもオンライン販売にエントリー致しました。

今は、幅広い年齢層がオンラインにて商品を購入し、ＳＮＳを利用し情報を得る時代になっており、静岡特産品の「しずパレ」と「ＢＡＳＥショップ」にて新たな販売ツールとして順調に注文が入っています。

今後、県の支援事業は期限付きの取り組みの為、施設独自にてオンライン販売を継続することを視野に入れ、利用者さんの工賃に反映出来るよう、新たな商品開発やクオリティーの高い製品づくりに務めていきます。

## あしたかホーム　コロナ対策支援で空気清浄機の寄贈

令和３年６月３日、静岡トヨタ自動車から新型コロナウイルス対策支援のため、浮遊ウイルスの作用を抑制するとされるプラズマクラスターイオンを発生する加湿空気清浄機の寄贈を受けました。

あしたかホームでは寄贈に感謝するとともにデイサービスセンターに設置して感染症予防に役立てています。

●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302　沼津市東椎路1742-1
TEL（055）967-1166（代）　FAX（055）967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402　伊豆市大野304
TEL（0558）72-8111（代）　FAX（0558）72-7297

●特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315　伊豆の国市田京1259-29
TEL（0558）76-6700（代）　FAX（0558）76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318　沼津市平沼929-1
TEL（055）969-3355（代）　FAX（055）969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302　沼津市東椎路1742-1
TEL（055）967-2220（代）　FAX（055）967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315　伊豆の国市田京1258-429
TEL（0558）76-6702（代）　FAX（0558）76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315　伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX（0558）76-6755

●原高齢者福祉センター
〒410-0312　沼津市原1200-3
TEL（055）968-4510（代）　FAX（055）968-4511

●ふれあいデイサービス〈デイサービス一般型〉
〒410-2505　伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL（0558）83-3380（代）　FAX（0558）83-3380

●天城放課後児童クラブ
〒410-3213　伊豆市青羽47
TEL（0558）87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505　伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL（0558）83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001　沼津市足高156-1
TEL（055）921-5722（代）　FAX（055）921-5723

●ケアハウスはるかぜ
〒410-0318　沼津市平沼929-1
TEL（055）969-3382（代）　FAX（055）969-3383

●小規模多機型施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401　伊豆市牧之郷116番地
TEL（0558）72-8811　FAX（0558）72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム 小規模多機能型居宅介護支援事業所 プレーゲあしたか
〒410-0302　沼津市東椎路1639-1
TEL（055）967-3400（代）　FAX（055）967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーゲおおひと
〒410-2318　伊豆の国市白山堂408-9
TEL（0558）76-7300　FAX（0558）76-7299

●障害サービス ケアホーム なぎの家
〒410-2315　伊豆の国市田京1258-437
TEL（0558）77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315　伊豆の国市田京1259-293
TEL（0558）77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215　伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
  TEL（0558）85-2030　FAX（0558）75-8201
- あまぎデイサービス〈デイサービス一般型〉
  TEL（0558）85-0816　FAX（0558）75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム〈障害サービス〉
  TEL（0558）85-1919　FAX（0558）75-8201
- プラムカフェ
  TEL（0558）85-2551　FAX（0558）75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874　沼津市松長12-3
TEL（055）969-7050　FAX（055）968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2413　伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL（0558）99-9301　FAX（0558）99-9302

●なかいず認定こども園
〒410-2505　伊豆市八幡282-1
TEL（0558）75-2810　FAX（0558）75-2811

●はら居宅介護支援事業所
〒410-0311　沼津市原町中2-7-11
TEL（055）941-8333　FAX（055）941-8334